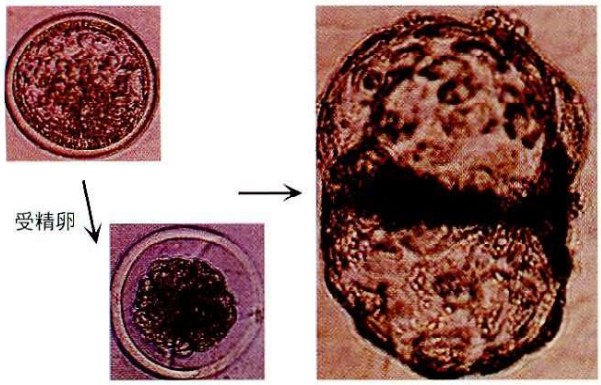
特　集

1　経営改善をめざした酪農技術



判別雌卵　　培養後判別雌卵

胚移植技術による優良牛の増頭

完全混合飼料（TMR）効率的飼料給与

個体検定（乳量）による牛群改良

ハーブ（ペパーミント）の栽培試験

はじめに

牛乳は、酪農家が組織した生産者団体によって一元的に集荷され、複数の乳業メーカーへ販売されている。長期にわたる計画生産体制下にあったことから、各地域、ブロック間での販売競争は質、量ともに激しく、単に消費地に近いだけでは有利に販売できない状況に置かれてきた。

本県の酪農は、京阪神の大消費地を控えて発展し、西日本でも有数の産地となっている。

これまでから産地間競争に打ち勝つため「おいしさ」や「新鮮さ」に直接つながる乳質改善について、関係者が一丸となって取り組んできた。集送乳の合理化や検査体制の整備、検査結果の乳価反映などを行い着々と成果をあげてきた。

2000年、大手乳業メーカーが惹き起こした事件を契機に消費者の安全に対する意識は、より一層鮮明になり、また情報・知識の収集も大いに進んだ。

乳業メーカーだけではなく生産者に対しても関心が寄せられ、これまで以上に安全で安心できる牛乳生産に酪農・乳業界あげて取り組まなければならない現状となっている。

いま、高齢化や環境問題などで酪農家は減少していく傾向にある。京阪神の需要に新鮮さを強調して供給できるという本県の立地条件を最大限に活かしながら、酪農を続けようとする生産者へ研究機関として技術面から如何に支援できるかを常に念頭に置かなければならない。

改良による乳牛能力の向上、酪農経営安定策、飼養管理面からの改善、新しい商品の開発と相互に関連する課題について、今後、現地で広く活用されることを切望する。

枡田　隆一（淡路農技・畜産部）